

TOHATSU

PARTNER

2009年10月9日発行／秋号

VOL.79



PHOTO：収穫期を迎えた大山千枚田（鶴川市）

C O N T E N T S

- | | | | |
|--------------------------|----|--------------------|-----|
| ● 50周年のトーハツ健康保険組合がAEDを寄贈 | P2 | ● リトルボートがキス釣り大会 | P5 |
| ● トーハツ本社内でAED講習会 | P2 | ● 関西トーハツポンプ会が工場見学 | P6 |
| ● 第38回全国消防救助技術大会 | P2 | ● 東北トーハツポンプ会が技術講習会 | P6 |
| ● 佐賀県多久市がエコ消防ポンプ導入 | P3 | ● 中央トーハツポンプ会が技術講習会 | P6 |
| ● 新潟県佐渡市へ積載車納入 | P3 | ● JICA研修 | P7 |
| ● 山梨県都留市へポンプと台車セット一括納入 | P3 | ● 東京消防庁へポンプ納入 | P7 |
| ● 九州「対馬」で船外機の技術講習会 | P5 | ● 東京板橋区へポンプ納入 | P7 |
| ● マリン東北で4スト船外機の技術講習会 | P5 | ● 晩産業がFBCラジオにゲスト出演 | 裏表紙 |
| ● 三好マリンモーターズがキス釣り大会 | P4 | | |

トーハツ健康保険組合 設立50周年を記念し AED(自動体外式除細動器) 5台を寄贈



トーハツ健康保険組合では組合設立50周年を迎えるに当たり、その記念としてトーハツ(株)及びトーハツマリン(株)の両社にAED(自動体外式除細動器)5台を寄贈。その贈呈式が去る9月4日、トーハツマリン(株)内で行われました。式典には健康保険組合から田中恒夫理事長ほか各理事の方々、またトーハツ及びトーハツマリンの社員代表ら関係者が出席。同組合田中理事長の挨拶の後、トーハツ(株)金子社長にAED5台が贈呈されました。

この後、式典の一環として日本光電工業(株)によるAEDデモンストレーションが行われ、参加者全員が緊張した面持ちで操作方法を体験。人命を救う緊急時の大切な要素として、いかに素早い判断が求められるかなど多くを学びました。このAED装置は、扱い易い操作方法と分かり易い音声ガイドが特徴で、その信頼性に対し強い安心感を覚えました。また最近猛威を振るっている新型インフルエンザ対策として「正しいマスクの使い方」についてもレクチャーがあり、改めて健康・予防に対する正しい行動を再認識した次第です。

トーハツ健康保険組合は昭和34年9月に設立。その後いく度かの厳しい時代を経験され、その運営には大変苦勞されたことと想像されます。また近年、企業を取り巻く環境の変化に対応し、被保険者への安心を守るため多大な努力をされたことと存じます。そのご努力に敬意を表すると共に、今後とも益々の発展を心からお祈り申し上げます。

(TMC総務課/大坪)

トーハツ本社4階研修ホールで

AED講習会

この度トーハツ健康保険組合からAEDを寄贈されたのに伴い、去る9月8日、本社4階の研修ホールで早速「AED」の講習会を開催。講師による扱い方をはじめ、人形をモデルにした胸骨圧迫の実習などが行われ受講者の皆さんは終始真剣な眼差しで聞き入っていました。

また質疑応答では、「雨の日、屋外でAEDを使っても感電の危険性はないの?」とか、「子供用を大人に使っても効果があるの?」等々、質問が続出。講師が思わず唸る場面もしばしばあって、救命と健康に対する意識の高さがうかがえる講習会でした。

(総務部/佐藤)



横浜市消防訓練センターで 第38回 全国消防救助技術大会

昭和47年から毎年続けられている全国消防救助技術大会が、去る8月20日、今年は横浜市消防訓練センターで開催されました。

当社は、熱画像直視装置、画像探査機Ⅱ型、水中探査装置、熱源センサーを中心に、濃煙熱気訓練装置の模型、隊員用装備(山岳・急流・ガレ場用)などを展示。また、同時にライト・マルチツールの特価販売、Tシャツなど千円均一のワゴンセールも行った結果、猛暑にもかかわらず当社ブースにユーザーが殺到。広くアピールすることができ、今後の拡販に向け貴重な一日となりました。

(防災営業部/友田)





新潟県・佐渡市へ

軽四駆積載車など3台を納入



朱鷺の野生化に向け、放鳥後の話題も尽きない佐渡島の新潟県佐渡市へ、この9月下旬、軽四駆積載車(トラックタイプ)2台、軽ワンボックス指揮車1台、合計3台が納入されました。

この度納入の積載車はポンプを付けないものの、荷台床面を全面縞板張りとするなど豪華な仕様です。またワンボックス指揮車も荷室は縞板張り、更に窓保護枠を付けるなど細部にわたりこだわりのある車両となりました。これは織装の段階から佐渡市消防本部、販売店の(株)大昭商事、トーハツ(株)の三者間で何度も綿密な打ち合わせを行い、消防署員、消防団員が真に使いやすい車両となるよう工夫された結果です。打ち合わせ当初には同市消防本部の消防長自らが出席するなど、念の入れようでした。

8月下旬、完成した車両3台はフェリーで佐渡市へ。その後、同市による完成検査などを経て、この度の納入となったものです。消防署員をはじめ消防団員の皆様にご満足頂ければと思います。ご採用下さった佐渡市消防本部、並びに納入にご尽力頂いた(株)大昭商事様には厚くお礼申し上げます。

(防災中央/伊藤)



燃費が向上 CO₂半減 佐賀県多久市が 「エコ」消防ポンプ導入



多久市消防団へ配備される「エコ」ポンプ

環境に優しい新型消防ポンプ「VF5 3AS」導入を決定している佐賀県多久市では、去る7月23日、同消防機器を扱う佐賀市のトーハツ特約販売店/(株)サガハツに於いて、同製品の操作や性能などの確認作業を実施しました。

このポンプは燃費抜群で騒音も少ない4ストローク型エンジンを搭載。排ガス量も従来比98%をカット。燃費は向上しCO₂排出量はほぼ半減するという高性能ぶり。多久市では、「騒音が少なく、操作が簡単」と言う消防団員の高評価を踏まえて、この度12台を購入。各消防団へ配備されます。この日、市職員はエンジンの音や動き、付属品の数量などを一つ一つ確認。作業に立ち会った同市消防防災係の菊池清隆係長は「音が静かなので、指示や無線の声が通りやすく消防力アップが期待できる」と、語ってくれました。

ご採用頂いた多久市様、販売にご尽力頂いた(株)サガハツ様には厚くお礼申し上げます。
(防災九州)

山梨県都留市へ「V10F1-D」 台車セット 16台を一括納入

山梨県都留市へ去る8月21日、トーハツ可搬ポンプ「V10 F1-D」台車セット16台が一括納入され、納入式典のあと早速同市内16の各地区会へ配備されました。

同市関係者多数出席のもと小雨模様の中で行われた納入式典は、厳かなうちに終了。次は2班に分かれて、ポンプ販売店の(有)中村ポンプ工作所による取扱い説明が実施され、地域の防災を担おうと各地区から区長をはじめ多数の関係者が参加しました。とりわけ今回は普段消防に携わっていない方々が中心のため、エンジン始動から保管方法など細かいところまで、熱心な質疑応答が交わされました。また代表の方には、実際にエンジン始動から放水までを丁寧に指導。コンパクトで扱い易い「V10F1-D」とあってスムーズに操作を体験。満足して頂きながら無事納入を終えました。

この度配備された「ポンプ・台車セット」が、地域防災へ更なる意識高揚に繋がればと思います。

ご採用頂いた都留市の関係者、並びに納入にご尽力された(有)中村ポンプ工作所様には、改めて厚くお礼申し上げます。

(防災中央/伊藤)





九州最北端の島“対馬”で 船外機MFS25/30Bの技

九州最北端。本土から132 km、お隣の韓国まで僅か49、

5kmという対馬は、対馬海流に育まれた最高の漁場に囲まれ、四季を通じて豊富な魚介類が水揚げされています。その水揚げに大きく貢献しているのが、低燃費で環境に優しい4サイクルエンジンです。いまだ記憶に新しい原油価格の異常高騰。その煽りで対馬内のガソリン価格もリッター 200円を超える非常事態。実はここ対馬は離島であるがゆえに、本土と比べると普段でも2~3割高いのです。この状態に慣れていない島民も、この価格高騰には頭を抱える始末。低燃費が自慢の4サイクルエンジンも、ここまで価格が高騰しては歯が立ちません。

しかしこの状況下、トーハツが誇るエコ・エンジン“MFS25/30B”は同クラスの中でもトップクラスの低燃費を実現しており、島内ユーザーのお財布にも優しいエンジンとして脚光を浴びている。実はこのエンジン、従来の4サイクルと違いキャブレターを持たないインジェクションエンジンで、様々な電

子部品によりエンジン環境を最適にコントロール。抜群の低燃費を実現しています。

今回の技術講習会は、この船外機の販売に貢献して頂いている販売店様に実施されたものです。6月の梅雨入り以降、天候に不安はあったものの開催当日は快晴。販売店様には多忙なスケジュールを工面してご参加願いました。講習内容は午前中が講義中心。午後は一転して実機を用いた実践的なメンテナンスを指導しました。

従来の4ストロークとは違いキャブレターを持たないインジェクションエンジン。従って普段使い慣れない横文字の部品名が沢山使われている為、受講者の方々はちょっと勝手が違った様子。それでも時間の経過と共に徐々に慣れてきたのか落ち着きを取り戻し、眼差しも真剣。とりわけ実践メンテナンス講座に入ると全員エンジン全開。時折あまりにも専門的過ぎる質問も飛び出し、これには流石の一本槍講師も「持ち帰りで確認させて下さい」と、頭を掻くなど、張りつめた空気が一瞬和む場面もしばしばありました。

現場最前線の販売店様と親しく意見交換ができて、大変有意義な技術講習会でした。開催にあたりご協力いただきました小田モーターズ様及びご参加頂いた方々には、この場を借りて改めて厚くお礼申し上げます。

(マリン九州/藤川)



絶好の釣り日和 三好マリンモーターズ 「キス釣り大会」

三好マリンモーターズ主催による「第15回キス釣り大会」が、絶好の釣り日和に恵まれた去る6月14日、今年も愛媛県四国中央海域一帯で開かれました。

今回エントリーされたのはボート15隻/33名のおなじみ釣りキチの面々。午前11時の検量まで、日頃鍛えた腕を競い合いました。この度は大物キスの喰いが悪いと見えて、多くの参加者から苦戦の声が上がっていました。

さて2匹の長寸合計で競われる検量時には、ミリ単位の攻防に一喜一憂。最後に決着をつけたのが一匹目26.9cm、二匹目24.4cmの合計51.3cmを釣り上げた鈴木さん。2位に大差をつけて断トツの優勝でした。鈴木さん、おめでとうございます。

表彰式の次は恒例の豪華賞品が当たるビンゴ大会などで盛り上がった後、散会しました。お世話頂いた三好マリンモーターズ・三好社長および奥様、大変お疲れ様でした。

(マリン関西/福松)



4スト船外機の技術講習会を実施

術講習会



トーハツのマリン東北では、販売店による更なる整備力UPを目指して、去る8月20日/21日の両日にわたり、船外機の技術講習会を実施しました。この度の講習会では理論よりも実践を重視した内容で行われ、全体的構造の理解を深めるため4ストロークエンジン「MFS20C」まるごと一台のカットエンジンを用意。エンジンの基本的整備のためのバルブの擦り合わせや、タペットクリアランスの調整、更にシリンダー

部へのピストン、クランク、コンロッドの組立て方法などを行いました。

またロアユニットに関してはウォーターポンプの水シールの説明や、サブウォーターパイプの機能。ポンプインペラ破損時のポンプ関係部品の点検方法。ギヤバックラッシュの調整方法。ギヤケースボディの各部水抜き穴の機能等々、ちょっとしたコツを含めた説明などが行われました。

一方講義では、MFS30Bのダイアグノーシス(コンピューター診断機能)なども実施。実際に船外機を運転して操作方法なども体感して頂きました。この度の技術講習会による整備力のUPが、今後の販売力に直結してくれることを期待しています。

ご参加頂いた販売店の皆様、お忙しい中ご苦勞様でした。

(マリン東北/岩淵)



リトルボート主催のボート研隊による第16回キス釣り大会が、今年も去る6月21日、135隻250名の参加を得て福井県・鯉川シーサイドパークで開かれました。

この大会は毎年梅雨時期に開催されているにもかかわらず、不思議と好天に恵まれる強運さ。ミニボートでは世界最大を誇る同大会に、天も

福井県鯉川シーサイドパークで ボート研隊 キス釣り大会



味方してくれるのでしょうか。また毎年のことながらミニボート135隻の一齐スタート時の光景は圧巻そのもの。一方、11時の検量、表彰式、じゃんけん大会と続く各種の行事は、いずれも250名が参加する超ジャンボ。この光景も、また圧巻です。

最後は同大会のスローガンである「自分のゴミは自分で持ち帰ろう」の精神で、海岸を清掃。事故もなく無事閉幕しました。リトルボートの田原社長様、大変おつかれさまでした。

(マリン関西/福松)

●関西トーチポンプ会● 駒ヶ根工場見学会から木曾路の旅へ

関西トーチポンプ会では去る7月16日・17日の両日、総会を兼ねたトーチポンプ駒ヶ根工場見学会と、馬籠宿、妻籠など木曾路の旅情を楽しみました。

初日の工場見学会では、先ず敷地の広さにびっくりした様子。また船外機の組立て製造ラインの最新設備にも大きな関心を寄せられました。一方ポンプ棟では、普段取り扱っている可搬



消防ポンプが、一台ずつ組み立てられて行く工程を親しみ深く見学されました。生産工程を一通り見終わったあと質疑応答の時間をもうけたことで、販売店の皆様から沢山の質問や要望を頂き、貴重な情報交換ができました。

駒ヶ根工場を後にしたご一行は昼神温泉郷へ移動。温泉にとっぷり浸かって日頃の疲れを癒した後は夜の宴席へ。冒頭、同ポンプ会の三好会長の挨拶があって、宴会がスタート。お互い仕事談議を交えながら雰囲気は益々盛り上がり、そのまま二次会へ。メーカーと販売店どうし、更なる親交を深めました。

二日目は早朝から激しい雷雨。雨中の観光とは言え木曾路旧街道の町並みは、興味深く印象に残るものでした。ご参加頂いた関西トーチポンプ会の皆様、お疲れ様でした。

(防災関西/田村)



拡販強化を目指し 東北トーチポンプ会が 4ストローク技術講習会



東北トーチポンプ会では、4ストローク可搬消防ポンプの拡販対策の一環として去る7月27日・28日の両日、トーチポンプ防災東北の事務所内で技術講習会を開催。同ブロックの特約販売店14社・26名が参加して実施されました。

講習内容は、構造全般(遠藤講師)、電装全般(米山講師)、営業全般(志津川講師)など3グループに分かれ、実技も交えて効率的に行われました。また第1日目終了後には会場を変えて懇親会も催され、営業面や技術面について活発な意見交換が行われるなど、仕事談議で盛り上がりお互いの友好を深めました。ご参加頂いた特約販売店の皆様、大変お疲れ様でした。

(防災東北/中島)

トーチポンプ中央会 2箇所に分け技術講習会を実施

トーチポンプ中央会では、去る9月4日から5日(駒ヶ根工場)、11日から12日(トーチポンプ本社)の2箇所に分けて恒例のポンプ技術講習会を開催。中央ブロックで活躍する特約販売店の面々が多数参加。また講師としてトーチポンプ技術部から遠藤、米山の両部員、サービスから新井部員、そして営業部から志津川係長と田中部員の計5名が参加。進行役の田中部員のもと、2箇所による延べ4日間にわたり実施されました。

講習カリキュラムは、構造、分解、組立て、電装などの説明に加え、セールス、操法要綱など多岐にわたる各項目を消化。とりわけ受講者の興味津々だったのが分解・組立ての項目で、撮影する人、メモを取る人、質問する人等々、熱心な受講風景でした。

一方、実演によるポンプ操法では、起こり得る失敗例と成功例をそれぞれ実演で示し、受講者にも体験して頂きました。これは言葉だけでなく体験する事で、より密度の濃い内容になったと思います。

今回ご参加頂いた皆様には、この場をかりて厚くお礼申し上げます。

(防災課/手島)



去る8月24日、JICA（国際協力機構）の火災予防研修の一環として海外研修生6名が訪問され、ポンプの構造についての座学とポンプのデモをご覧頂きました。ベトナム、タイ、アルメニア、フィリピン、スリランカから来られた研修生の皆さんは積極的にポンプに触れ、質疑応答にも力が入りました。



中継送水のデモでは、送水が始まると自動始動するポンプに驚嘆の声。また4線放水時には改めてその高性能ぶりに写真撮影のフラッシュが瞬きました。4stエンジンポンプにも関心が高く、すぐに価格を教えて欲しいとの声もありました。既に多くのトーハツポンプが納入されているベトナムの研修生でさえ、まだ自動吸水や自動中継機能は目にしたことがないということで好評でした。日本では旧型式となったモデルがアジアでは、まだまだ現役のポンプとして大活躍している状況の中で、新機能を備えたポンプのデモができたことで技術力のアピールとともに、将来的にも引き合いが期待されます。

後日、引率の方から研修内容が非常に喜ばれていたことを報告いただき、国際協力の一助として、今回のプログラムを終了できたことを嬉しく思っています。

(防災海外/宮川)



東京消防庁へ「V10F1-D」 20台を納入

消防職員による地域住民への初期消火指導用ポンプとして配備される小型可搬消防ポンプ「V10F1-D」の完成検査が、納入に先立って去る8月20日、各担当所管の検査員立会いの下トーハツ(株)の旧東京工場で行われました。

検査作業は特約販売店の東京物産(株)の陣頭指揮で行われ、担当所管から派遣された各検査員は、仕様書と現物の整合性を確認。また最後には試運転も実施され、同モデルの取扱いの容易さを伝えることもできました。

この度トーハツ可搬消防ポンプをご採用頂きました東京消防庁関係者、並びに販売にご尽力頂いた東京物産(株)様には厚くお礼申し上げます。

(防災中央/田中)

東京・板橋区へ 「VF21AS」27台納入

トーハツ(株)本社のお膝もと東京板橋区へ、この程4ストローク可搬消防ポンプ「VF21AS」27台が一括納入されました。

板橋区では地球温暖化防止に力を入れており、同4ストロークポンプを高く評価。納入前の中間検査時にはエンジンのテスト始動を行います。同区の担当者はその静粛さに驚いていました。防災訓練時の消防ポンプの騒音が問題化している折から、今回の納入モデルは有効な打開策になると自信を深めています。

最後になりましたが、トーハツ可搬消防ポンプをご採用頂いた板橋区、並びに販売にご尽力頂いたと東京物産(株)様には厚くお礼申し上げます。

(防災中央/田中)

福井市の曉産業(株)がFBCラジオの 土曜スペシャル「防災特番」にゲスト出演!

福井市に拠点を持つトーハツポンプの特約販売店/曉産業(株)は、去る6月27日(土)、FBCラジオからオン・エア(13時~16時)された生放送の防災特番「その時あなたは~大切な人を守れますか?」に協賛会社として参加。同番組のインタビュー・コーナーにゲスト出演されました。

このラジオ番組は、1948年(昭和23年)6月に発生した福井地震から今年で61年が経過し県民の意識が年々風化して行く中で、これからの時代に合った防災を考えながら県民の意識の高揚を促がそうとの意図で制作されたものです。

ゲスト出演された曉産業(株)の佐々木さんはインタビューに答えて、会社の概要、理念、そして4ストローク可搬ポンプにも触れられるなど、有意義なアピールの場となりました。今回、曉産業(株)のご協力により、その一部をご紹介します。

■曉産業さんはどんな会社なのですか?

当社は、消防・防災の仕事をしております。主に消火器、火災報知器などの消防用設備の点検。その他には、消防自動車、可搬式小型動力消防ポンプ、消火器、そして住宅用火災報知器などの販売も行っております。

当社には、2つの基本方針を示した経営計画書というものが、それに基づいて仕事をしております。1つ目はお客様第一主義に徹する。2つ目は環境整備に徹底するという事です。1つ目のお客様第一主義は、会社はお客様の為にあるものとの考え方から、1日24時間、1年365日、連続サービスで臨んでおります。お客様の都合を満たす事だけでなく、感謝と歓喜の心を持って接しております。2つ目の環境整備とは、一つの例で申し上げますと、当社は社内のトイレをピカピカに磨きこんでおります。物を磨くことは心を磨くこと。つまり環境整備とは、規律、清潔、整理、健康、礼儀作法などを意味します。一人ひとりが身の回りを整理整頓し、挨拶を交し合う。こうして生まれた心の触れ合いこそが、防災の原点だと思っております。

■住宅用火災報知器ってどんな物ですか?

住宅火災で死に至る原因の約6割が逃げ遅れによるものです。逃げ遅れの



理由として、夜の就寝中に発生した火災が多いことから、就寝中の火災をいち早く知らせる為に設置する物です。

種類は煙式、熱式の2種類があり、いずれも煙や熱を感知すると音声警報を鳴らします。煙式は主に寝室や階段などに、また熱式は台所などに設置します。

■取付けはどうしたらいいのですか?

天井、または壁に取付けてください。天井ですと部屋の中央付近に、壁からは60cm以上離して下さい。壁面に取付ける場合は、天井から15cm以上50cm未満の位置が適切です。取付け方は、先ずベース部分をネジで取付けた後、ベースに本体を取付ければ完了です。

■どんな対応をしていますか?

防災は地域ぐるみ、街ぐるみというスローガンを掲げております。具体的には、町内会の集まりに参加させて頂き、住宅用火災報知器を取付ける意味、取付け方、使い方などをご説明し、できれば町内会で同じ物と同じ時期に一括して頂くようお薦めしています。同じ物であれば、ご近所の一人暮らしのおばあちゃんの家のも取付けられますし、取扱い方法や電池の寿命切れもほぼ一緒。お互い教え合うことができて便利です。

その上、悪徳業者の防犯にも繋がります。

また当社は、消火器も合わせてご提案させて頂いております。住宅用火災報知器が火災発生を感知、消火器で素早く消火することによって被害を抑えることができるからです。一方、個人ではなく自治会などには可搬式小型動力ポンプもご提案させて頂いております。このスタジオの外に展示させて頂いておりますが、「4stポンプ」と言う非常に静かで排気ガスがクリーンな環境に優しいポンプです。

当社は住宅用火災報知器、消火器、消防ポンプなどをお客様にご提案しながら、防災に対する意識を高めるお手伝いできれば、との思いで対応させて頂いております。



発行

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢3-5-4
TEL (03) 3966-3116 / FAX (03) 3966-0090
トーハツ株式会社
トーハツパートナー編集局
編集兼発行責任者 若林 弘/小山 将